

第25回区民車座集会意見交換内容（川崎区）

- 1 開催日時 平成28年10月24日（月） 午後2時から午後3時30分まで
- 2 場 所 川崎区役所7階会議室
- 3 参加者等 参加者12名、傍聴者6名 合計18名

<開会>

司会：それでは、定刻となりましたので、ただいまから第25回区民車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます川崎区役所副区長の山口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今回、川崎区では、地域における高齢者などの見守り活動をテーマに選ばせていただき、それぞれの取り組みの発表や意見交換を通じて課題を共有化するとともに、区政やまちづくりに生かしていきたいと考えております。

まず、本日の参加者でございますが、お手元の次第にありますとおり、鋼管通2丁目町内会、浜町1丁目老人クラブ、セソール川崎京町ハイライズ自治会、藤崎町内会の皆様にお越しいただいております。

次に、行政からの出席者を紹介させていただきます。福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：土方慎也川崎区長でございます。

川崎区長：こんにちは、よろしくお願いいたします。

司会： それでは、初めに福田市長から一言御挨拶を申し上げます。市長お願いします。

<市長挨拶>

市長：改めまして、皆さんこんにちは。今日は車座集会に御参加いただき誠にありがとうございます。

司会のほうからありましたとおり、今回で25回目ということで、毎月1回各区を回ってやらせていただいておりますけども、最初の一巡目二巡目はテーマを決めずにということで、どなたでもどうぞというふうなことでやっていたのですが、時々にはテーマを決めてやったらどうというふうな話があったりして、もう四巡目に入っていますけども、四巡目はそれぞれのテーマごとにというので各区でやっております。先日行ったのは高津区で、高校生、川崎市立の高津高校の高校生相手に区民車座集会をやったり、あるいはその前の麻生区では、麻生区に在住、在校の大学生と町内会の皆さんとの車座だったりとかというふうなことをしたんですが、今日はお話があったとおり、地域での見守り、支え合いということで、私がこの川崎市の政策で一番重要なこと、10年間で何が一番大事かといったら地域包括ケアシステムというものをどうやってちゃんとつくっていくかということが、この川崎の将来にとって一番大事だというふうなことを思っていますが、その第一線で今日はやっていらっしゃる皆さんにお話を伺うことができ大変うれしく思っております。どうぞ今日はよろしくお願いいたします。

<意見交換>

司会：ありがとうございました。それでは、早速、各団体の発表と意見交換に入ります。進め方で

ございますが、それぞれ団体ごとに概ね5分程度で発表をしていただいた後に、市長から感想や質問等を行います。1団体15分を目安に進めてまいりたいと思いますので、御協力をよろしくお願いいたします。

初めに、住民相互の独自の見守り活動を行う先進的町会でもあります鋼管通2丁目町内会様の発表をお願いいたします。

丸野さん：皆さんこんにちは。ただいま御紹介いただきました鋼管通2丁目の丸野と申します。

今日は私どもが行っております見守り・支え合い活動について簡単に説明させていただきます。

余り時間もありませんので、途中どんどんはしよりますから、よろしくお願いいたします。

では、資料に基づいてやっていきたいと思います。

1番のふれあい会食会、これは皆さんどの町内もやっていますので、これは省略させていただきます。

2番目の助け合いネット鋼2、これは平成20年から私どもやっております。困ったときちょっとお手伝いをということで、病院の送迎、それから庭木の剪定、雑草の抜き取りとか、家具の移動とかいろいろな要望があったものを全部応えております。一番大変なのは病院の送迎でございます。この対象者は介護の3だったんですけど、要するに介護保険では送迎の金が出るけど、病院、それから菓の待ち時間は自腹だということで町会にお願いしますということで来ました。この方は月2回、それで2年間やりましたけど、一番やっぱり大変です。私も2回ほど付き添って行きましたけど、とりあえず女性で2時間待たされて、トイレ行きたいのにも私が男なものですから、だからやっぱり困ったみたいなんですけど、それうちの女房がずっと2年間やってきましたけど、やっぱり3時間かかるからやっぱり1日もう駄目になっちゃうんですね。この2年間やっぱり大変でした。

それから3番目の見守り、これは先のふれあい会食会です。これですね。見守りは定期的な見守りを10日と25日に行っております。もう4年たちました。それで、今ここ対象者が65人、53世帯いらっしゃいます。それを町会長、副会長、それから民生委員、それから老人会の会長、それからボランティアの女性ということで5、6人で毎月2回見守りをやっております。

まず、元気ですかと健康状態、それから食事はどうですかという形で食事の問題、それから先ほど言いましたように、お手伝い、何かお手伝いすることはありませんかと、この3点は必ず聞いております。それから、これは市長、4月から地域支援担当ですか、保健師さんが配属されましたので、保健師さんも一緒に各戸に回ってどうですかと、全部聞いております。これ今2回ですから、四半期に一遍帯同して、私どもと一緒に行って一人一人、1軒1軒を回ってお話ししております。

最初に出ました中で家がありましたね。あの一遍は振り込め詐欺の件で警察も一緒に同行してやってくれています。警察も大体四半期に一遍ぐらい私どもと一緒にやっております。

それからページを開けてもらって、次、日常見守りですね。これは先ほど申しましたように、留守のところには、今日お伺いしましたけどお留守でしたので、何かありましたら電話くださいということでみんな留守のところには配布しております。

それから、日常見守りなんですけど、道路に対面しているところを一つのグループとしてグループを組んでいるんですよ。だから最初のころは隣近所で1軒見ればいいんじゃないかということだったんですけど、調査した結果は、道路対面の10軒あるところに9軒が高齢者で1軒だけが50代ということだったものから、だけど今の80代ってすごく元気なんですよね。だから自分なんか見守られながらお互いに見守ってこうという制度にいたしました。それで、じゃあどういふときなのかというと、例えば洗濯物が干しっ放しだよとか、そこは新聞を郵便物がたまっているよとか、それから、隣は近ごろ電気つかないよとか、それから子供のぎゃあぎゃあ泣く声で虐待じゃないかと、いろいろなことが来て、それを一つ一つ解決しております。

それから4番目、結局、毎年毎年回っているだけではだめなんですよ。やっぱり高齢者を外に出して、いろんな人と話し合っていたらこうということで、花見をやったり、それから運動会とか、それから餅つき、もういろんな町内の行事に参加させて、一応そういう高齢者の席を設けて料理をつくらせて招待している。必ずそのときも、こういうことがありますからぜひおいでくださいということで1軒1軒回ってチラシを配布しております。

それで、見守りの中で、日常見守り、先ほど言いました、日常見守りでちょっと事例を1件、これは特殊な形ですけど。私どもが12月の18日頃、一昨年ですけど、餅つき大会やっていたんです。そしたら助けて助けてという声を隣の奥さんが聞いてうちに来たらしいんですが、私いませんでしたので、うちの女房がそこへ行ってみましたら、先ほど説明しました病院に送迎している人だったのです。じゃあなぜ電話しないのと言ったら、自分が座っているところの2メートルぐらい離れているところに電話があったんですけど、そこに動けないんです。そこまで行けないんです。ということは飯も食べてない。下のほうもあれですけど、うちの女房が全部処理して、それで町内会館にみんないましたので、電話があつて、こういう状態だけどうしたらいいだろう。この方は生活保護者ですから、一応田島支所に電話を掛けようとしても日曜日ですから連絡とれない。それでどうしたらいいものかと思ったら、包括センターが土日もやっているということで、包括センターに電話して、私どもの鋼管通2丁目の担当者に来てもらってその日は処理してもらったんですけど、それで次の日、朝早速包括センターから田島支所のほうの電話が行きまして、田島支所から救急車呼んでいただいて、それで病院に連れていったんです。かといってその方はもうアパートに帰っても一人で生活できませんから、包括センターと田島支所が話し合つて、たまたまそこは包括センターが桜寿苑といって特養の施設だったんです。それで市の施設が見つかるまでそこでお預かりして、それでちょうど12月でしたけど1月半ばに施設が空いたということで移りました。そういうことで、行政、町内、それから包括センターという連絡がうまくいった例ではないかと思えます。

それから、定期的な見守り、ちょっと一例申し上げますと、やっぱり10日の日に見守りに行きまして、すごく具合が悪い人がいらっしたんです。具合が悪いんじゃないのと言ったら、いやもう1週間位何も食べてないんだと、流動食だけなんだと。じゃあすぐ病院に行きましょうということで、病院に連れていったらもう即入院ということで、それでいろいろうちの女房がいろんな買い物とか、いろんな支払いとかずつとやっていたんですけど、3カ月位しましたら病院から電話がありましてちょっと来てくださいと。そうしたら担当医とそれから包括センター、それから田島支所、それと病院の相談員と本人がいて、もう半ばでしたから、もう今月いっぱいこの方はもうもたないと、だから本人が言うには、町内会で葬式やっていただけませんかということでしたので、うちは構いませんよと。ただ田島支所のほうでお墓がありますか、あります。じゃあ親戚がいるんじゃないですか。親戚とはもう四十数年つき合つてませんと。だからぜひ町内でやってくれと言ったけど、田島支所のほうは、やっぱり親戚とかあれがあれば、相続の問題で町内会に迷惑掛けちゃいけないから、一応田島支所のほうで調査しますからということで別れたんですけど、3日後に電話がありまして、田島支所から、もう本人は危篤状態なので、町内会でぜひ本人の希望どおりやってくださいということで、即依頼があつたものですから、葬儀屋さん、お寺さん、それから不動産屋さんに行ってアパートの修繕とか支払いと、いろんな支払いを全部見積もり取りまして、それでその全体の見積もりを田島支所、それから病院、それから包括センターに持って行って、これだけかかりますよと、これでやってよろしいですかということで、やっていいという人は誰もいませんけど、これでやりますからということで承諾を得て、それでお通夜にも町内会から15人、それから告別式も15人来てもらって、それで盛大ということじゃないんですけど、やって、それから津田山の共同墓地ですか、あそこにおさめて、これこういう例は二度とないと思えますけれども。

それから、先ほどのページに戻りまして、以前家族状況調査票を作ったんですが、また今年改めて作り直

しました。それで、ここに「災害時に支援を求めるか、求めない」とあります。ただ、うちのほうでは、鋼管病院と十数年もう防災訓練やっているんです。だから災害が起きたときは鋼管病院がすぐ対策本部を作っちゃうんです。対策本部を作って、とりあえずセンターができて受付ができて、私ども島田会長、四役を含めて私どもの6町内はとりあえずセンターにまずボランティアを派遣するわけです。それで要するにけがした人は全部そこに持っていけばいいんです。それで、そのためにはだから町内で、あなたはどのような持病がありますかという形のを全部調査いたしまして、けがした人がいたら担当医がいなくても、私はこういう病気を持っています。糖尿病でインシュリンですと言えば、担当の専門がいなくても看護師さんでも十分できるだろうということで、これとりあえずセンターにうちの町内でこの名簿を持って行って、この町内の人はこの人ですという形でやるようにしてあります。

それで、これは先ほどの調査したあれで、一次援護者、これは私は支援を助けてくださいよという人が一次。高齢者だけ私は元気だからいいですよというのが二次です。それでこれと町内の全体の図面を全戸に配布しようということだったんですけど、結局、高齢者の方が、私、90でひとり暮らしだと犯罪に利用されると。それでは困るということで、じゃあこのグループごとにサポーターを設けようと。4人のサポーターに確認させようと。まず一次、必要です、私助けてくださいよという人をまずサポーターが先にやって、それで余裕ができたなら二次のほうも見ていくという形でやっているんです。今、計画しているんです。それでサポーターとこれは了解取っているんですけど、それから車椅子とか、障害者がいるわけです。じゃあこの人はどこに持っていかと、避難所に持っていけないわけです。だからたまたまうちのほうでは障害者福祉施設田島というのができたんですよ。だからそこで受け入れてくれてもいいんじゃないか。福祉避難所として受けてくれよと。だって民間の病院もちゃんと対策本部作るんだから、お宅だって作っていいじゃないか、障害者センターとなっているんだからということで今交渉しているんです。

だから、これはこういう形の人はこれは家族が付き添っていきますよと。これは付き添いが必要ですという今こういう形で全部調べてやっているわけなんですけど、まだ了解は取ってません。これの返事もまだ田島支所からも来ませんしどこも来ませんけど、福祉施設としてこれは絶対に持っていきべきじゃないかと思えます。

もう大分時間がないということですから、これで終わります。何か訳の分からんこと言ってました。ごめんなさい。

司会：どうもありがとうございました。それでは市長のほうから感想とか御質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

市長：いやもう感想というか、もうびっくりしました。これだけやっておられる町内会って恐らく川崎市内にありますかねと思うぐらい、びっくりしましたですね。今の名簿、あるいは家庭の状況、調査票、これは本当はこういうことを私ども全市的にやりたいのですが、なかなかその体制がとれるところというのは恐らくそうじゃないかと思うんですね。今の要援護の名簿だって、この出し方によっては町会さんによっては相当御意見がありますよね。出されてもいいけどもう受け止められないよという町会から、もっと出せというふうに言われる方から、町会ごとに相当ばらつきがあるんですね。ただどこまで細かくやっておられるというのは多分僕は聞いたこともないですし、すばらしい取組だというふうに思いました。こういうことをぜひ他のところまで、できるところって本当に数少ないかもしれませんが、こういうことをやっておられるところのいい事例を、他の町会の人たちにももっともっと広げるような、私たちも少し努力をしなければならぬというふうなことを改めて感じさせていただきました。

1点、僕、質問なんですけど、これやっておられるのが丸野会長初め役員の方と、それから民生委員の方

と、それから老人クラブの方と。

丸野さん：そうです。

市長：6人位でというふうなことをおっしゃってましたけども、このサポーターの方はまた違う。

丸野さん：サポーターは基本的には建物が耐震工事をやっているところ、それと町会の役員、それを一応サポーターとして今選定しているところです。だって、家が壊れたところですよやはり駄目ですから、絶対に壊れないところが一つの条件です。

市長：先ほど言われていたブロックのような形で道路に面しているところを一つのブロックとしてカウントして、その中でサポーターが一人ずつ付くというような感じでやっているのでしょうか。

丸野さん：いや、だからこれは例えば10、11、12地区がありますね。そこで4人のサポーターを置いている。だから、このブロック単位にしているところもあるし、ブロックごとのところもあるわけです。ここに図面でありますね、全体図が。

市長：いやしかし、本当に驚きました。

丸野さん：大体今の8割は、対象者は承諾しております、公表するなんていうのもね。だからまだ当たってないところも人がいますので、要は助けてもらうんですから、そんなの公表しちゃいけないというんだったら誰も助けられない。だから強引に、強引じゃないんですけど、もう4年間の実績がありますから、前から見守ってますから。

市長：見守りですね。

丸野さん：ええ。その点の信頼はあると思います。

市長：なるほどね。これ見守り活動自体は6人位でずっとやっておられるのですか。

丸野さん：そうです。

市長：ものすごく負担になっているということはないですか。

丸野さん：4年間1回も休んだことないですよ。

市長：ちょっと驚きますよね。びっくりするぐらい機能されているということに。

丸野さん：それで日常の見守りも結構いろいろなもので情報が入ってくるんですよ。

市長：見守りどころか最後看取りまで。

丸野さん：もうああいうのはないと思いますけど、1回だけだと思いますけどね。今後もないと思いますけれども。大体葬儀だけで100万かかりました。だってもう相続人がいないのですから、その人の財産はもうその場で全部使わなきゃいけないですから、お寺から何から。だから要はお寺のほうもお通夜、告別式、初七日、四十九日法要、それも全部入れてやってもらいました。

市長：そうですか。いやもう意見とか感想とかというよりも、とにかくすごいことに驚いてしまってもう、ありがとうございます。こういうすばらしい取組をされているということを、ちょっともっとこのメンバーではもったいないです。もっと広めたいと思います。なかなかハードルすごいですけどもね。

丸野さん：大体小さい町内だからできるんじゃないですか。

市長：今は？

丸野さん：240世帯。

市長：240世帯。あとどのぐらい世帯増えても大丈夫そうですか。

丸野さん：結局、世帯の大きいところはそれだけ役員がいるんですから、だからそれはもう分割してそれぞれやれば、世帯の大きいところは2分割とか3分割すればできないことはないと思います。大体これをさっき言ったように53世帯を毎回回っている。大体2割は留守があります。デイサービスに行っている人とか、病院だという形で。だから、あと40何世帯を2時間半位で回っています。大体短い人は2、3分、多い人は15分から20分。

市長：いやすばらしい、ありがとうございます。この車座はライブで生でインターネットで流れているのと、後で保存してみんなが見られるようになっていきますので、この取組はいろんな人たちが全国で見ることができると思うので、すばらしい事例として多分記録に残りますので、本当にありがとうございました。

丸野さん：結構いろいろなところからバスで来ますよ、見に。

市長：そうですね。いやすばらしい、ありがとうございました。

司会：鋼管通2丁目町内会様、どうもありがとうございました。

続きまして、老人クラブの友愛チームによる見守り活動を実施されております浜町1丁目老人クラブからの発表をお願いいたします。

成田さん：皆さんこんにちは。浜町1丁目の老人クラブ会長の成田と申します。

それでは、浜町1丁目老人クラブ友愛チームによる見守り活動について発表させていただきます。

本日の発表の内容ですが、初めに浜町1丁目老人クラブについてお話させていただきます。

友愛チーム見守り活動を写真などで御覧いただきながら紹介したいと思います。次に、現状と課題、それに今後についての発表といたしたいと思います。

初めに、浜町1丁目老人クラブについてです。まず浜町1丁目、川崎区内の位置ですが、浜町1丁目は田島地区にありまして、田島支所のある鋼管通2丁目の隣に位置しております。浜町1丁目老人クラブですが、田島地区老人クラブ連合会に所属しておりまして、主な活動としてグランドゴルフ、ゲートボール、カラオケ、踊り、それに今はやってきましたペタンク等をやっております。現在112人の会員が所属しており、見守りを行う友愛チームは、なおその5人体制で見守りを行っております。原則として月1回、必要に応じては随時見守りを実施しております。

次に、友愛チームの目的です。大きく三つあります。対象者への日常的な声掛け、話し相手になること、必要に応じて関係機関につなぐこととなります。ここでの必要に応じて関係機関につなぐということは、見守り対象の相談内容によって、町内会、民生委員、警察につないでいく役割が主ということなのです。

次に、友愛チームによる実際の見守り活動の内容を紹介いたします。見守り活動の様子ですが、まずは集会、会合をしたら、訪問前にお茶などの飲み物や果物、箱ティッシュ、トイレットペーパーなど見守り対象者への手土産として買い出しいたします。手土産を持って見守り対象者の自宅を訪問している様子です。皆さん声掛けるとすぐに出てくるような仕組みになっていますので助かります。

玄関から家の中まで入って顔を見守りながら、世間話をしたり、体調や不自由な点、困っていることなどの話も聞いてまいります。同じ話の内容などもよくありますが、およそ1軒当たりの時間は7、8分位です。

続いて、他の見守り対象者の自宅を訪問している様子ですが、買い出しをした手土産を手渡ししております。食べ物、飲み物のほかに、トイレットペーパーなど日常の消耗品などは見守り対象者は買いにくいので大変喜ばれております。

玄関から上がってお話をすることもあります。訪問時に何か困っていることはないかなど聞いても遠慮してなかなか話してくれません。答えが返ってこないこともありますので、我々見守り隊が家のことを見て、先日の大風で落ち葉がたまっているとか、下水等が詰まっているとか、ということを見てすぐにその対処をいたします。

こちらのスライドはアパートの2階に住んでいる見守り対象者の自宅を訪問している様子です。階段が狭く、昼夜のおつかいや連絡に出入りする場合はよく手すりにつかまる、下りる場合はバックしながらよく注意しながら下りるように再三注意しております。そのように注意していますので、今までは事故というようなことはございませんでした。

浜町1丁目老人クラブ友愛チームは、見守り活動を通じて明るい輪を、真心の励ましで皆さんに接し、お互いに支え合い、きずなを深めております。

次に、現状と課題についてお話しします。現状と課題については、老人クラブは趣味を通じてつながる集まりであって、町内会や民生委員などと見守り対象者に深入りすることが余りありません。そのため、先ほど友愛チームの目的のところでお話いたしましたその他の内容によって、町内会、民生委員、警察の関係によりつないでいくことが重要です。他には高齢者を見守る友愛チームのメンバーも高齢であり、次の世代につないでいくことが課題です。また、老人クラブは比較的健康的な人が加入しているため、老人クラブに加入していないが見守りを要するといった人の情報が得にくいという問題もあります。

最後に、今後について、今後見守り対象者の相談内容について、町内会や民生委員などの関係機関につなぎながら、情報共有、連絡推進などを深め、より良い地域での見守り活動をしていくことが必要であると思っております。

以上で浜町1丁目老人クラブの発表を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。それでは市長から感想や質問等よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございます。成田会長、素晴らしい活動をされているということで、本当にありがとうございます。

ちょっと質問は、今、最初に112名のメンバーさんがいらっしゃるということでしたけども、112名の中に対象者という、見守りの対象になる方ってどの位いらっしゃるんですか。老人クラブのメンバーではない方を見守っているんですか。

成田さん：対象者の中に前は8名おったんですけども、今は6名で。

市長：見守りをしてもらう対象がですね。なるほど。見守っている方というか、そのチームは何人位いらっしゃるんですか。

成田さん：5名でやっております。

市長：5名で。なるほど。そうですね、だから今は6名の方をどの位の頻度で見守ってらっしゃるのですか、巡回は。

成田さん：原則として1カ月1回。

市長：月に1回。

成田さん：何かがありましたら随時皆さんに連絡をとって、こういうあれだから行ってみましょうというようになりますので、そこに行っております。

市長：なるほど。いつから始まったんですか。

成田さん：平成17年だと思います。

市長：17年。じゃあほぼ10年間近く、ずっと続けてらっしゃる。

成田さん：はい。

市長：ああそうですか。本当に今聞いていて、いろんなところにつないでいくということの重要性ですよ。町会や民生委員の方に、あるいは役所だとかというふうな形で、今、私たちのほうですごく気にしているのが、確かに老人クラブのようなところに顔を見せてくれる人たちはいいんですけども、なかなか突然来なくなったり、あるいは全然声が掛からない、誰も見ているのが分からないという、誰の手にもかからず目にも触れないという方たちをどうしていくかというのがすごい課題となっているんですけども、それを老人クラブという形で見いただいているというのは、これはすごい取組だと思いますね。ただゲートボールとか、あるいはグラウンドゴルフやるだけじゃなくて、見守りも一緒にやろうと。素晴らしい取組。

ちなみに手土産を持っていくというのはなかなかいい仕組みだなと思いましたが、なかなかいきなり何々さんどうですかと言われても、ちょっと手土産があるだけで雰囲気違うと思いますけど。

成田さん：ほんの手土産、小さいものですけど、市からもらった予算の中でやりくりしてちょっとした。

市長：ありがとうございます。何か課題の中でおっしゃっていましたが、若い人たちが、なかなか新しい人たちが入ってこないというのは、この前老人クラブ連合会の皆さんからも課題としてあったんですけども、やはりそのところが課題ですか。

成田さん：やっぱりどこの老人会でも同じだろうと思いますけれども、なかなか声掛け合っても、まだ老人会までは若いというような声が出るので、そんなことは言わないで、民生の各グループに婦人部のような会もあるごとに声を掛けてどうですかと、最後に町内会長にお話して、あそこはこんなチームでどうだ、声掛けていただいているのかというような声を掛けてやっているんですけど。

市長：なるほど。最後に一つ、見守っていただいている今の6名の方というのは、全員独居ですか、おひとり暮らしの方ですか。

成田さん：ひとり暮らしです。96歳を頭に、その人は前は車椅子でやってましたけど、おうちにいて。

市長：なるほどね。ありがとうございます。実は川崎区は皆さん御案内のことかと思えますけども、川崎市内では独居世帯というのが一番多い区になっていますので、こういった成田会長のところの取組というのが他の区にもいい好事例になる取組だと思えました。本当にありがとうございます。どうもありがとうございました。

司会：浜町1丁目老人クラブ様、どうもありがとうございました。

次に、500世帯を超える大型マンションにおきまして自治会を設立し、見守り活動をされておりますセソール川崎京町ハイライズ自治会様の発表をお願いいたします。

相川さん：セソール川崎京町ハイライズの活動について簡単に御説明いたします。

私、自治会長ではなくて、前理事長、現在は福祉専門委員会の事務局長という立場で話をさせてもらおうというふうに考えております。

今、画面に出ていますのがうちのマンションで、ちょっと見にくいんですけど、今の写真を撮った場所というのはこの辺から撮っています。この辺から撮ってまして、この辺のものが一応出ているというところで、その奥に居住棟が随分ありまして、全部で5棟あるわけですが、居住棟が5棟、共有棟が4棟と。それで大体全体の広さが2万6,000平米、つまり8,000坪ぐらいですね。それに公園が結構広くて、6,000平米、約2,000坪、公園というか公園ですね。公園等であとは公開空地入れますと相当の広さを持っています。

自治会としては、大体居住者は1,500名位と。それで70歳以上の人が約200名以上というところなんです。自治会については、加入率は大体95%以上、それで加入率が非常に高いほうであろうというふうに考えています。自治会は最近の新しいマンションというのはなかなか自治会をつくっていないところが多いんですが、うちの場合は管理組合を設立した後、その後に1年後に自治会はつくったというところでございます。

これが公園から見ました図になっています。この図はファーストピアというマンションなんですけれども、公園から見たものです。

次は、福祉活動の変遷について若干ちょっとお話をいたしますが、まず一次福祉活動というのがありますけれども、平成17年の3月に、今から見れば10年前ですね。特に高齢者に対して特化しまして対策を立てたというところで、一番重要なのは引きこもりをいかに出してくるか。それと健康増進ですよ。どうしても年を取ると健康増進をしていかないと困る。それともう一つは、マンション等でも重要になってくるんですが、コミュニケーション、この3点に力点を置きまして活動を開始したというところで、細かい点についてはまた後で話をいたしますんで、第二次福祉活動というのは、今年4月に発足しまして、これはまさに助け合いというのか、互助運動というのですかね、今、鋼管通の2丁目のお話とか、ああいうことをとりあえず、あそこまで行かないんですが、できるところからやっというところを今年の4月から始めております。

これが談話室の様子というところで、今、談話室については、大体、大体というのか、展示室、オブジェルームというのがあります、これは大体物置きになっていたんですね。これを改造しまして、ちょうど1階にあったものですから談話室にしたと。

それでまず高齢者の、この談話室については全部ではなくて、高齢者優先日というのが週2日設けて、月曜日と火曜日に設けているほぼ、それにはボランティアスタッフ、これは全て現在7名位ですかね、奥さんたちです。奥さんたちが常に常駐すると。1名ずつ常駐すると。これは何があるか分かりませんから、倒れたらすぐ救急車呼ばないといかんとかというのがありますので、それで奥さんたちが、この人が今日は来ないねという電話してみて、出てこいと言ったり、かなりこの人数でやっているというのが談話室の活動というのが現状です。

これはちょっと若干様子が違うんですが、うちの場合は、大体コーラスグループが三つ位あるんですよ。それで今市長も御存知だと思んですが、これは市民合唱祭、毎年出ています。これはシニアコーラスといって陽だまりコーラスという名前がついているんですが、約今会員が50名、ただしここに書いてありますように近隣の方も入っています。近隣の方も入って、鶴見から来る人もいるし、ごく近くから来る人もいますというところで、せいぜい50名位で毎年週一遍、場合によっては二編練習して、必ず年1回披露し、マンション内では大体2年に一遍発表会をするというふうにやっております。

これは今度は食事会、これは一つは憩の場なんですが、引きこもり対策が一番ポイントになっております。こういうことをして何とか出そうというところなんです。

ここに書いてありますけど、食事会はそれぞれの季節に応じて食事をつくっているところです。だから1月は鏡開きですよ。3月はひな祭りとか、季節に応じて、それで料理については奥さんたちが全部これ手づくりです。手づくりでつくると。これは食事をしているところで、ただし無料じゃなくて300円いただくというところですね。まずは毎回大勢の方が参加するんですが、ただし、ちょっと場所が今ちょっと狭いというところで、今我々のほうとしてはどこか広いところがないかなというところで、今検討し出したところです。

これはちょっと人物像、私は風景ばかり撮っているんで、風景ではないんですが、歩こう会。これは健康の増進にこだわったり、コミュニケーションであったり、1,500名いますと知らない人が多いんですよ。そうするとこういうところに出てくると大体知り合いになるわけですよ。あんた何棟に住んでいるんですか、いろいろ非常にコミュニケーションをとっている。

コースが二つありまして、それでゆったりコースというのが大体4キロメートル位ですね。それで健脚コースというのが大体10キロメートル位。それで最後一緒になると。それで最後に一緒になって、最後はこのリーダーが前もってうまそうな店を探しておくんですよ。そこに行って、ぱっと飯を食って騒いで、それでおしまいです。というところでそれを楽しみに来る人もいますので、そういうこともやっている。

次が、福祉協力員制度の新設で、第二次というところで、これは居住者の中から協力員というのを応募し

まして、それでその中から受付係というのがありまして、それで依頼者、電球を換えて欲しいとか、あるいはごみを運んで欲しいとか、そういう人が出てきますと、この受付のほうに係のほうに電話をしてもらって、それでここから協力員のほうに行って、そこは協力員がお手伝いをするというところで、まだ4月から始めたものですから、まだまだこれから広く活動していくというところで、ただし、大きいブラインドを掃除をして欲しいとか、ガスオーブンを移動させて欲しいとか、そういうふうになってくるとちょっと手に負えない部分があります。そういうときは、いろんなシルバー人材センターとか、いろんな包括センターとかいろんな支援センターがありますので、そういうところに依頼をするという格好をとっております。

これはちょっと関係ないんですが、ちょっと、先月、知人が珍しく咲いてあったので、これは御存知かどうかあれですが、年に一遍夜間少しづつ咲く月下美人という花です。これをちょっとお見せしようと思って撮ったのですが。

今後の取組について簡単にお話させていただきます。これまでは、今、私は昔は管理組合だったのですが、いずれにしても自治会と管理組合が共同してやってきました。それでこの立場で今私が話をしているわけですが、この管理組合と自治会がやはり共同戦線を張ってやっていくというのがもう非常に重要な話だということで、今後もやはりこの自治会と管理組合が共同してお互いに協力してやっていこうということでございます。

じゃあこれからどうしようかと。この活動を続けていくのですが、やはり先ほど鋼管通にお住まい方のお話のように、これをもうちょっと我々のほうは協力員制度をもうちょっと広げていこうと。今、国についても地方に地方にと、自宅介護の話も出てくるし、先読みするわけではないんですが、最終的にはもう自宅介護あたりを視野に入れたもう取組を少しずつやっていかんといけないのではないかというんで、そう考えてみると、マンション一つだけではどうしようもないわけですね。やはり地域の医療もあったり、いろいろありますので、あえてここで地域ネットワークという表現をとらせていただいたんですが、今後については、地域ネットワークを通じてさらに活動を拡大していきたいというふうに考えております。

拝聴どうもありがとうございました。

司会：どうもありがとうございました。それでは、市長から感想や質問等よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございます。540世帯を超えるというところで、大規模なところで、高齢化率とおっしゃる場合、1,500人のうち70歳以上が200人位だというふうにおっしゃっていたので、それほどはまだ高くないという感じですけど、これから多分恐らくマンション建設時に。

相川さん：どんどん増えてくる。

市長：同世代が買っているので、一緒に年をとっていくという形ですよね。ですから、最後のまとめにありましたとおり、これからもうちょっと地域の中の一員としてネットワークを広げていくというふうな、物すごく先を見たお取組に心から敬意を表したいと思います。

特に福祉協力員制度の話というのは、さっきの丸野会長の話ではないんですけども、非常に興味深いすばらしい取組だなというふうに思いました。現状として、4月に始まったばかりだというふうなお話でしたけども、受付のところはどういう方がまずやられるのかということと。

相川さん：受付は、今、会長がいますが。

市長：山田会長が。自治会としてですか。少し補足的な説明していただけますか。

山田さん：受付は私がやって連絡調整をしているということですね。そうやってどちらに、内容によっては市のほうにやったり、包括支援センターのほうに持っていったりということで、内容によってはそういうふうに振り分けをするということですね。現在のところは余りそういうふうなことと違って、粗大ごみの運搬とか、そういうようなものを受け付けているという状況ですね。ただ、現在はまだそんな件数も多くなくて、だから今まで4月から今4件そういうものを受け付けてまして、それで手伝っています。

市長：今は福祉協力員という方は何人ぐらい登録されているのですか。

山田さん：今は10人。

市長：そうですか。

山田さん：それも居住者の方からお願いしているわけです。自ら手を挙げてくれたという、そこは私は本当に良かったなという感じがします。

市長：素晴らしいですね。

山田さん：いないんじゃないかなと思っていたんですよ。そういうふうに10人の方が手を挙げてくれたと。それが私は一番感激したんです。

市長：そうですね。これは先ほどのお話にもありましたとおり、管理組合とそれから、それこそ自治会とうまい連携ができているという。

山田さん：そうですね。と思います。

相川さん：そうですね。ちょうど私が理事長の時代に会長が副理事長だったのです。それで本当は私は後の理事長だったんですが、もう自治会の会長だったもので、引っ張られちゃって、それでちょうど二人で両輪の格好でやっていたというところですね。

市長：なるほどですね。これは非常に大規模マンションゆえのというか、管理組合と自治会と一緒に両輪となってやるという素晴らしいケースだと思いますね。ありがとうございます。

ちなみにこの1,500人中、あるいは200人の70歳以上の高齢者の中で、全く事情を把握していないという方って中にはいらっしゃるんですか。全て把握していると。大体こういう200人ぐらい高齢者がいて、どのくらいケアが必要でとかというのは大体もうほぼ。

山田さん：私はそうですね。200、正確には210人、その方は敬老の日にお祝いを持って、みんな各戸に見守りに行っていると。やっぱりお土産があると、ということで、それで全戸回っています。

市長：全戸を回って状況を把握しているんですか。素晴らしいですね。

山田さん：あとは何かあったときには、協力員の方が気がついたらやってもらおうとか、そういったことでやっています。一応その方は210人の方は把握しています。

市長：やっぱり今日も繰り返しになりますけども、誰からも知られることがないとか、顔が分かってないという人たちをどうやってなくすかというときに、全戸を把握されているというのは、これはすごいことだなというふうに思いますね。

相川さん：ですから、今、孤独死というのがないんですよ。1件もまだないんですね。ただし独居老人もかなり増えていますのでね。

山田さん：今お一人の方は40人位おられますので、でも皆さん元気でやっておられます。今のところ、この人は守らなきゃいけないという人はまだ何とかおられないので。

市長：いや本当にすばらしい取組で、本当にありがとうございました。

山田さん：ありがとうございました。

司会：セソール川崎京町ハイライズ自治会様、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして区内で最大の町会加入世帯数、3,200世帯を誇り、エリアも区内で一番大きい町内会におきまして、主に子供などを中心に見守り活動を実施されております藤崎町内会様の発表をお願いいたします。

平岡さん：皆さんこんにちは。藤崎町内会会長の平岡でございます。

それでは、藤崎町内会における見守り・防犯パトロール活動について発表させていただきます。

まずは、藤崎町内会の位置でございますが、中央地区との境の大師地区でございます。地図だとスライドに示すとおり、川崎区役所から見てちょうど東側ですね。水色のあれが町会の区域でございます。藤崎町内会は区内最大の町内会でございます、町内会の加入世帯数が3,200世帯、藤崎1丁目から4丁目までが一つの区域でございます。南北1,200メートル、東西で800メートルの広い単一町会でございます。役員は町会長をもとに各町内ごとに4人の副会長さん、そして120人の役員で構成されております。

次に、町内会の区域内に管理する掲示板が40基ですね。九つの児童公園がございます。防犯灯は300基以上ございます。また、町内会館は3年前に建て替えました。地元からの寄付もいただいて、1階にキッチンを備えた太い杭の耐震性の高い町内会館になっております。毎月第4金曜日には1階のキッチンを活用して町内会館で婦人部と総務部の女性陣で中心にワンコインランチ、500円で軽食が食べられるというようなことを実施して、おしゃべりなどをしながら集まる場を提供するとともに、町内会活動の参加のきっかけにもつながっております。これは福島地震があつてから、ずっとこういうことで取り入れております。

次に、見守り活動を始めたきっかけでございますが、平成18年の秋に女子中学生が朝の登校時にスカートを切られたと、そういうことが発生しまして、地元の町会で何かできないかというようなお話をいろいろしていますが、なかなか朝も登校時間に人を集めるというのは大変ですが、藤崎町内会ではお年寄りが多いものですから、朝は大丈夫だということで、藤崎町内会では黄色のジャンパーブレーカーを備えて朝の登校時の見守り・パトロールを始めたのがきっかけでございます。

次に、見守り・防犯パトロールですが、御紹介したとおり、町内会の範囲がとても広く、町内の生徒・児童は四つの中学校と五つの小学校に通学しております。しかしながら、パトロールが必要な時間帯は通学時の30分程度ということで、どのように見守りパトロールをするかという問題がありました。そこで30分程度の通学時間帯の中で広い範囲をカバーするため、二人一組で自転車によるパトロールを行うことにしました。メンバーは、町内会の防犯部を中心に、十数人体制でA班、B班の2班に分けて1日交代で学校のある平日は毎日実施しております。

それでは、次に実際のパトロールの様子を写真で紹介します。まず、パトロールを行う朝、7時40分までに藤崎小学校の西門の前に集合します。おそろいの黄色のウィンドブレーカーを家から着て、着用して集合しています。7時50分から自転車での見守り・防犯パトロールに出発します。こちらは交差点での信号待ちの様子です。交通ルールを守って走行します。通学している生徒も写真に写っております。

グループになってパトロールをしています。こちらのスライドは、ちょうど「かんのん町保育園」の前になりますが、児童・生徒の通学路にもなっています。登校する児童・生徒に声掛けをしています。長く続いているので、子供たちのほうからも挨拶をしてくれるようになりました。

これからも通学通路を走行して見守り・防犯パトロールをしている様子でございます。広い範囲を自転車で走行しているので、多くの児童・生徒に声を掛け、挨拶を交わすことができるようになりました。

次に、自転車による見守り・防犯パトロールの効果です。通学路にそろいのユニホームで大人が通行することによって、登校時の子供の安全だけではなく、空き巣などの防犯にも抑止力を発揮しています。パトロールを始める前とでは、まちの雰囲気以前よりも良くなったと感じています。

平成18年度から始めた自転車での見守り・防犯パトロールですが、10年以上続けられている理由としては主に三つございます。一つには、A班、B班に分けて1日交代としていること。二つ目には、強制しないこと。三つ目には、体調や都合の悪い日は無理をしないようにしていることです。

自転車で見守り・防犯パトロールを10年以上続けてきた結果、パトロールを始めた当時、小学校1年生だった子供が中学校を卒業するなど、子供の成長を見守ることがやりがいになっています。また活動を継続していることでパトロール隊の認知度も上がり、先ほどの写真でも御紹介しましたが、子供たちから声を掛けてくれるようにもなっています。

もう一つ、自転車での見守り・防犯パトロールのほかに、犬の散歩時での防犯パトロールを紹介します。愛犬を散歩している町内会の人たちに声を掛けて、自転車パトロール隊と同じユニホームを着て愛犬を散歩してもらうワンワンパトロールも実施しております。午後の下校時でのパトロールも兼ねる形で実施しています。犬の名前を覚えてもらっての挨拶や会話、子供たちのお母さんから声を掛けてもらえることも多く、地域のコミュニケーションとまちの防犯にこちらも大きな成果を上げているところでございます。こちらは同じユニホームを着て愛犬と散歩するワンワンパトロールの様子でございます。

最後に現状と課題です。自転車での見守り・防犯パトロールでのメンバーはほとんどが70歳以上の高齢者です。朝の時間がつくりやすい一方で、午後は用事やいろいろとあるので、下校時のパトロールには一部ワンワンパトロールを行っていますが、朝と同じようにできていません。下校時が生徒や学校によって異なることから朝と同様にパトロールができない理由の一つです。

最後に、町内会における現状と課題といたしましては、青年部の活動がなく、次世代の担い手不足が大きな課題になっています。

次に、登校時の子供の見守りを行っていますが、一方で、高齢者の見守りについては町内会として余りできていないのが現状です。課題となっています。また、男性シニア時代の町内会参加が少ないことから、男性向けの参加へのきっかけづくりなどが必要であると考えております。

以上で藤崎町内会の発表を終わりました。

司会：どうもありがとうございました。それでは市長から感想や質問等よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございました。最大の町会という意味ですから、大きいだけにそれなりにやっぱり難しさ
ってあると思うんですけども、120名もの役員さんがいらっしゃるということにすごいなど。

平岡さん：その下に班長さんもいるんで、それを入れたらもっと増えちゃうんですけども、一応役員として
婦長以上というのを役員と呼んでおります。

市長：そうですか。ということは班長さんまで入れると。

平岡さん：班長さんが小さな街区に囲まれたところを一人ずつ班長さんをつけています。

市長：それを数えるともっと多いんですか。

平岡さん：多いです、それを入れたら。でもそれは役員の数字には入れていません。それを入れると倍以上
の役員になっちゃいますので。

市長：それだけでもびっくりしてしまいますけれども。

平岡さん：それで班長さんは1年交代でぐるぐる回ります。それでほかの役員が1期2年ですので、2年で
交代ということで、そういう意味でうまくいっています。

市長：なるほど。最後に課題として平岡会長が男性の参加者が少ないというふうにおっしゃいましたけども、
それはパトロールのときですか。

平岡さん：パトロールもそうなんですけど、もう70代を超えている我々なんで、いつまで続くかなというこ
とで、若手がなかなか町会にも入ってもらえないというあれもありますので、ほとんどがもう60歳以上。
でも今は勤めも65歳までですからね。

市長：そうですね。それは実はもう市内の町会の皆さんはみんなそうなんですけども、同じ共通の課題を抱
えていまして、なかなか若い人たちが入ってこないよねと、役員も入ってこないというふうな話だったので
すけども、うちのところはこんなふうにして参加してもらっているよという方、どこかいらっしゃいますか、
ほかの3団体で。丸野会長のところって何か工夫ございますか。

丸野さん：先ほどもお話ししたんですけど、うちの青年会は20から35歳位の方が20人位いまして、そ
れも廃品回収を含めて結構協力してくれるのですよ。お祭からね。それも一つは飲みニケーションの良さ
じゃないかと思うんです。何か機会あるごとに青年部と飲んでいきますから。

市長：それは青年部にどうやったら入ってくれるんですか。

丸野さん：入ってくれるというより、何となくもうずっとそういう形になってきたんですね。

市長：そういう文化があるところというのは……

丸野さん：1、2年じゃなくて、もう10年位ずっと、だから一番最初の方が今35位なっているんです、20歳ぐらいの人が。だからそれでうちの町内だけではなくて、浜町1丁目町会ってあるんですけど、浜町1丁目とかいろんな近くの町内の人もいろんな催し物には参加してくれるんです。それも後の飲み会が楽しみで参加してくれるんですけど。

平岡さん：藤崎で言いますと、資源回収の日が第2日曜日と第4日曜日をお願いしているんですね。その団体はおみこしをかつぐチームがいるんです。その人たちに全部あれするから活動費としてあげるからということをお願いして回ってもらっています。

市長：そういうつながりもあるんですね。

平岡さん：おみこしかつぐ人みんな若いですから、比較的町会の役員より全然若いですから。

市長：それはでも本当に若いおみこしかつぐ方にとっても大変ですけど悪くない話ですよ。そういうつながりもできるんですね。

平岡さん：4対6でね。町会のほうが4割もらって、かつぎ会のほうが、おみこしを使う経費にということで6割程度は差上げています。活動費に使ってよということだね。

市長：なるほど。今、活動の中でパトロールでもワンワンパトロールもやっておられるというのは、あれはすごいいいですね。午後の時間帯で。

平岡さん：そうですね。最初スタートしたときに、犬を随分飼っている人が公園にいっぱい集まっているんですよ。だから、ひとつ我々と同じ、今日持ってきているんです。黄緑のあのジャンパーを着て散歩してくれないかなという声を掛けたところ、気持ちよく、ジャンパー全部差上げてぼつぼつ、そうするとやはり町内歩いていても、ああいう目立つジャンパーを着ていると防犯にも役立つんですね。

市長：そうですね。

平岡さん：テレビでもやってました。町会の役員がここは定期的に回っているよというと、そういう町内は悪いことする人いなくなっちゃうんです。だから悪いことする人は何も活動してないところに狙われちゃうというのをNHKでもやってましたので、だからワンワンもかなり犬がどんどん亡くなってきちゃって、やっていてくれた人もちょっと変化しちゃったんですけど、基本的にはそういうジャンパーを着て合意の上でやってます。

市長：何か藤崎行くと、ワンワンパトロールもそうだし、自転車でのパトロールでも、この明るい黄緑色のジャンパーを着ている人たちはまちを安全を守ってくれている人たちという認識が広まっているということ

ですね。

平岡さん：そうですね。それで最初は普通のこういうのを着てやっていたんですけど、今の子供というのは、知らない大人の人に声掛けられたら答えちゃいけないというのがしばらくあったんですよ。ですから、私は機会あるごとにああいうジャンパーを着て、小学校なんか呼ばれていったときに、これを着ているおじさんはみんな味方だからということで、声掛けたら掛けてということで、大分挨拶もできるようになりました。

市長：なるほど。学校との連携という意味ではどうですか。学校との連携はうまくいっていますか。

平岡さん：機会あるごとに我々、何ですか、昔遊びとかいろいろなものを教えに、町会の役員が昔遊びで随分呼ばれて行ったりしているんですね。そのときにいろいろ話をして、学校なんかの要望があればどんどん取り入れてあげるとか、いろんなことをやっています。

市長：ありがとうございます。何かこんなに大きな5,000世帯（※注）もあっているところの大きな町会でもこういう活動ができるんだという、何というか、勇気を与えていただいたような、そういったすばらしい事例でした。（※注）正しくは、3,200世帯です。

平岡さん：そうですね。ですから一つの町内でやっているというのは予算的には恵まれていますから、四つ分あるわけですからね。ですから、たまに町内ごとに町会長、町会を分けようという話も出るんですが、本当に一生懸命やってくれる役員さんがついてくれればいいんだけど、別に何もしなくたって1年終わっちゃうんですよ。それで我々が予算があれば皆さん提案するとどんどん取れ入れています。ちょっとみんな終わった後に感想聞くと、よかったな、またやってよという、そういう話になっているので、予算がある程度あるので、行動もしやすいですね。

市長：なるほどね。本当にすばらしい事例をありがとうございました。

平岡さん：いえいえどうも。

司会：藤崎町内会様、どうもありがとうございました。

各団体からの発表は以上となります。ここからは市長を進行役といたしまして、参加者の皆様と意見交換を行っていきたいと思います。市長よろしく願いいたします。

市長：今日は最初こちらの区役所に来て区長と話したときに、今日はなかなか逆に難しいかもしれないよと、区民車座集会のディスカッションがですね。というのは、皆さんすばらしい事例を話されますからというふうな話で、本当に4団体ともすばらしい一例を見せていただいたんで、本当に何というか、へえっ、はあ、すごいですね、なかなかその後の対応が続かない感じなんですけども、先ほどもお話ししたとおり、麻生区でやったときに、町会のすばらしいことをやっていることを実は若者が全然知らない。若者の学生さんたちもいろんな地域活動をやっているんだけど、その活動を町会の自治会町内会の方が知らないということで、実はその車座集会の間中、いやお互いに知らなかった知らなかったで終わっちゃったというふうな部分があって、だったらあなたたちの若い人たちのやっている情報を私たちにちょうだいよと。そしたら私たちの自治会報とかに載せてあげるからとか、そうすることによって何かお互いに知り合うことができるんじ

ゃないのと。あるいは自治会町内会のイベントにあなたたちも積極的に出てきなさいというふうな会話が生まれて、最終的にああこれ今回よかったねというふうな話になったんですね。やっぱり地域の活動に私も行政としても何とか若い人たちに入ってきてもらいたいというふうなのがあるんです。けどなかなかそれがうまくいってないというのが現状なんですけども、今、丸野会長のところは青年部というふうなのがあって、青年会か、何となくそういう昔からの文化があって入ってきていると。そういうところはいいんですけど、なかなかそうなっているところって少ないと思うんですよね。何かこういったことをやっているよとか、こういうことにチャレンジしたいなというふうなお話、どこかからありますか、今平岡会長のほうからは、そういったところが課題なんだというふうなお話がありましたけども。

実は私の住んでいるところの宮前区というところなんですけど、町内会は、完全に3分の2ぐらいが全くの新しい住民なんです。マンションがわあっと建ち始めて、私もその住民の一人なんですけども、その昔からある地元の町内会の人たちが、一時期本当にお祭りもなかなか厳しいなということになっていたんですけども、マンション住民をうまく巻き込んで、今や物すごい盛り上がっている町会になっているんですね。それはどういうふうにしたのかというふうなのをちょっと聞きましたら、学校がやっぱり起点になっているんですね。学校にPTA、あるいはおやじの会というのがあって、私もおやじの会に一応入っているんですけど、おやじの会に行って学校に関わっている。そうすると、町会の役員の人たちがあいつ入ったらしいぞとこのを見ていて、だんだんPTAの役員が終わったらおまえちょっと来いといって町会の役員に入れ始めるといふ、そういう循環ができてきて、新住民の人たちも徐々に町会の役員に入ってきて、今、お祭りから何かうまく回っているというのがあるんですけども、先ほど平岡会長に御質問したのが、学校との連携は大丈夫ですかとかというふうに聞いたんですね。実はそういう循環ってまちの中であるかな。あるいは学校が課題になっている、あるいはネックになっちゃっている部分ってありますかというふうなことなんですけども、いかがでしょうか。どなたからでも、いや、うまくいっている、あるいはうまくいってないとかというふうなお話、どなたか、お話しいただけるものありますか。

平岡さん：いいですか。町会の中には川中島中学校なんですけど、校長先生が地域にどんどん協力するというようなことを言っていたので、ただ、どうしてもみこしとか、そういうのは昔の人優先になっちゃうんですね。ですから、試合とぶつかっちゃう、またはおみこしの日が、それ以外はもう積極的にどんどん来てくれています。だからいい状態になっています。

市長：なるほどですね。学校と例えばですけど、児童・生徒の親というのと接点という意味ではどうでしょうか。

平岡さん：中学生の親というのはまだ若いし、今ほとんどが自宅にいる人いないんですよ。

市長：みんな働いている。

平岡さん：昼間は全部勤めていて。

市長：そうですね。

平岡さん：昔の人は女の人は専業主婦で家にいるなら役員選ぶのもお母さん方に頼めば大体やってくれるんですけど、今はみんな勤めちゃっているんですね。

市長：そうですね。

平岡さん：人を探すのも本当に大変です。

市長：そうですね。いかがですか。山田会長のところは比較的まだ若い方がいらっしゃる感じですか。

山田さん：私のところは、我々との年齢というか、その世代を管理監督ではないけど、今、中間が人がいないんです。それで学校との関係は昨日もちょっとふれあいまつりといって学校で、うちのほうは4町会集まっているんですね、小学校に。それでともに意見を出したりして、各町会で協力して学校とのつながりを持っております。私たちの町会のほうは、比較的皆さんとはよく交流をされていますね。それとマンションというところは、我々は外から、外からというのはおかしいんですけども、その町会に入ったわけですから、ですから私の考えでは、自ら町会に溶け込もうという孤立しないということで、それは町会のほうに自ら行くという形でやっています。今では皆さんが快くまちのほうも受け入れてくれたというふうに私は理解していますけど。それで、お祭りがあれば道具の貸し借りとか、餅つきがあればうちのほうの道具も使ってくれとかいって町会の方に貸し出している。今も中学校にうちのせいろとかいろいろ貸し出しているんですよ。うちは比較的そういうの揃っているものですから、そういうふうにやって学校とか地域とかのつながりを保っているんです。そういうふうにやっています。

市長：なるほど。物の貸し借りからおつき合いが始まるといういいケースですね。ああなるほど。

平岡さん：もう一ついいかな。

市長：どうぞどうぞ。

平岡さん：年寄りの見回り、それがなかなか難しいんです。それで昔会議があったときに、1件1件ドアをあけておじさん、おばさん元気というのは町会の限られた人数でやるのは無理だから、私が一つの提案として黄色い旗でも玄関に、あれ黄色い旗というのは、高倉健の映画で「黄色いハンカチ」と。その一つの例で朝起きたら旗を挿してもらって、それで夜寝るときはとって寝てください。そういう人たちの見周りだったら我々自転車ぐるぐる回りますよと。だけど1軒1軒様子を聞くというとみんな抵抗感じちゃうんですね。

市長：なるほど。

平岡さん：そうしたら皆さん委員の中で、ひとり暮らしが分かっちゃうというんですね。狙われたらどうするのかと、こうなるので、その提案は却下されました。だけどそうじゃないんだ、みんな悪い人ばかりいるわけじゃないし、鍵をちゃんと閉めておけばそんな事件には発達しないと思うんだけど、結局それ却下されちゃったんだけどね、本当に。それからあとはもう65歳定年になって、これから町会の役員にとお願いに行くと、町会には知っている人誰もいないんだと。女の方は知ってますよ子供を通してね。男の方はほとんど町会には知り合いがないんだというふうに断られちゃう。それでここにもちょっと話はしなかったんですけど、実話なんですけど、一人習字のうまい人がいたんです。それでうちの近くにちょうど卒業して定年

になって来たから、町会に入ってくれないかなとってお願いに行ったら断られちゃったんです。なぜかと、町会に知っている男衆が誰もいないから。それでまあしょうがないね本人が受けてくれないなら。そうしたらその夜家族会議開いて、会長がお願いに来たのに何で断ったんだと、打ち合わせして、それでやることに1週間後にやらせてもらいます。そうしたら習字がうまいんで、盆踊りのときの寄付金を一人で全部金幾らという、そうしたらみんなが、あれっこれ書いたの誰と、いやあの人だよと言ったらもう有名人になっちゃって、それでずっと10年ぐらい役員やってくれました。

市長：なるほどですね。

平岡さん：それで盆栽を趣味でやりたいというんで、町会に入ったおかげで盆栽の仲間も見つけて10人ぐらい行き来できるようになったという、本当に役員やっていてよかったなと感謝されました。

市長：なるほど。

平岡さん：そういうあれもあるんですね。ただ、本当に会社人間で、会社の友達いっぱいいますよ。ところが定年で明日からどこも行くところがないという、結構男の人はちょっと行くところがないんですよ。それで今、大師地区で、昔もう皆さんの年齢だとマージャンがはやってましたよね。それで私も役所にいたんだけど、町会の役やってから町会でマージャンやってはいけないと。あんな賭けごとやっちゃだめだというのが上司のあれだったの。それでももうずっと町内会館借りてやるのは難しいなと思っていたら、最近あちこちの町内でチラシを書いて、要らなくなったマージャンパイを町会に寄付してください。そうしたらぼんと20個ぐらい集まって、今、町内会でお年寄りを集めてマージャンを始めました。

市長：すばらしいです。

平岡さん：それで賭けマージャンではないんです。楽しむ。機械のあんな電動ではだめなんだって。積木みたく積んで指先を使うのがお年寄りにいいというんで、今幾つかやるようになって楽しんでます。私も近いうちに藤崎でも入れようかと思っています。そうじゃないと、賭けて何万も取られたという年金暮らしの人がもう変なあれになっちゃうけど、そうじゃなくて楽しもうということで、テレビなんかでもよくやっていますよね、指先の運動という、電動だとだめなんですって、積むのがいい運動になるんでというので、ちょっとここに括弧書きで書いてあったんですけど補足です。

市長：ありがとうございます。非常にいい書道の話は地域デビューのすごくいい事例ですね。

平岡さん：特技持っていたからね。もうその人も亡くなっちゃったんだけど、今は全部パソコンでやっています。

市長：実は2020年は東京オリンピック・パラリンピックですけども、2021年はねりんピックって、シニア世代が参加するスポーツと文化競技があるんですけども、その神奈川大会が2021年なんですよ。それに向けて参加種目、競技種目をどんどん増やして、みんなで参加しようじゃないかと。先ほどお話になっていた健康増進の意味を考えて、それはスポーツだけじゃないんです。健康マージャンとか、囲碁・将棋、こういったのもねりんピックの公式種目になっていますので、ぜひ町会とか、あるいは老人クラブとか、

そういうものにどんどん参加していただくということも何か地域デビューの一つのきっかけになるかもしれませんね。ありがとうございます。

何か今日、話足りないとか、コメントしておこうとか、あるいは福田に言っておきたいというような話があえてございましたら。よろしいですか。

ありがとうございました。

司会：どうもありがとうございました。そろそろ所定の時間となってまいりましたので、最後に市長から本日のまとめということで、1、2分よろしく願いいたします。

市長：ずっと話を伺っているのですけれども、本当にありがとうございました。全市的なモデルとなるようなすばらしい事例を四つそれぞれの団体からいただいて大変参考になりました。このことを自治会町内会は全町連という組織もありますし、老人クラブは老人クラブ連合会というのものもあるんですが、なかなか単体の町会の人たちにこのノウハウが行くかという、なかなか伝わらない部分もありますので、行政としてもこういうふうな取組があるんですよというふうなことを、今日みたいないい事例を御紹介するような機会をこれからも設けて、全市的に皆様方のようなすばらしい取組が、何というんですかね、それぞれの地域に合った形で出てくるのが何より一番大切だというふうに思っておりますので、そんな機会をこれから増やしてまいりたいというふうに思っております。今日は本当にすばらしいお話を聞かせていただきまして、誠にありがとうございました。

司会：今日はありがとうございました。参加者及び傍聴者の皆様はいくつか連絡事項がございますので、しばらく着席にてお待ちいただきたいと思っております。まず、受付の際に配布をさせていただきましたアンケートなんですけれども、こちらへの記入について御協力をよろしく願いいたします。お帰りの際に出口にいる職員にお渡しをいただければと思っております。

次に、お車でお越しになりまして、このパレールビル、または市役所の駐車場を御利用の方につきましては、やはり出口にいる職員に駐車券、こちらも御提示をいただければと思っております。また、本日これを言い忘れたとかというお時間の都合もありまして発言できなかったことなどございましたら、市長への手紙にて御意見、御提案をいただきたいと思っております。こちらも専用の封筒を出口に用意してありますので、お帰りの際にお持ちいただければと思っております。

それでは、以上をもちまして第25回区民車座集会を終了させていただきます。